

# 平成29年度 学校経営シラバス

北海道標茶高等学校

めざす学校像	めざす生徒像
1 地域の教育資源を生かし、体験に基づいた確かな学力と豊かな心を育む教育の実現	1 確かな学力を身に付け、主体的で豊かな人間性を持った生徒
2 北海道教育を象徴する特色ある学校としての自負を抱き、総合学科の趣旨と使命を自覚した組織的・計画的な教育の実現	2 不撓不屈の精神で挑戦し、新しい時代を拓く力を持った生徒
3 教職員間の協働意識、資質能力の向上意識を高め、地域・保護者から信頼される学校づくりの実現	3 <small>ふるさと</small> 地域の環境に学び、いのちを尊び、社会の発展に資する生徒

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教 育 活 動	学 習 指 導	○指導内容に係る本校のコアの明確化と、基礎・基本の定着の徹底 ○指導と評価の一体化による観点毎の能力の確かな定着 ○次期学習指導要領を見据えた新たな教育課程の骨格づくり	○授業における基礎的・基本的内容の確実な定着 ○全教科アクティブラーニングの導入と評価の工夫 ○自学習慣定着の取組 ○シラバスの有効活用と改善・充実 ○英語教育の推進と授業におけるICTの活用	□特に主要科目について、就職や進学に必要な最低限の学力を身に付けさせられたか。 □公開授業においてアクティブラーニングの導入と評価の工夫に関する取組がなされたか。 □朝学習の改善、家庭学習課題等、学習習慣や家庭学習習慣を身に付けさせる取組が1年間継続して行えたか。 □シラバスに新たに導入した基礎的・汎用的能力の重点事項が、学習指導に反映されたか。 □英会話をを用いた授業が行えたか。各授業において国際化を意識した授業が行えたか。
	生 徒 活 動	○特別な支援が必要な生徒の学習、生活支援体制の確立 ○社会的リテラシーの涵養 ○自主性、自律性に立脚した主体性の涵養 ○家庭と連携しつつ基本的生活習慣の確立	○学習及び生活支援体制の確立と生徒支援の充実 ○モバイル端末等にかかるリテラシーの育成 ○いじめの早期発見と早期対応 ○ピア・サポートの導入によるきめ細かな教育相談体制の確立	□支援が必要な生徒に対応した個別の支援計画を作成、実施できたか。 □SNSに特化した講話等の実施と、効果的な事後指導の工夫がなされたか。 □いじめ発生から1か月以内に状況を把握するとともに保護者との連携を図りながら解決することができたか。 □いじめを許さない学校の方針について全校生徒及び保護者に対して各2回以上伝えることができたか。 □ピア・サポートについて全教員の理解を深めつつ、生徒同士の実質的サポートが実践できたか。
	進 路 指 導	○キャリアガイダンス部(CG部)の機能(全分掌、年次のキャリア教育に係る活動をコーディネート)の重視 ○目指す生徒像実現に向けた諸能力の育成のための全体計画の充実 ○望ましい職業観・勤労観に基づいた多様な進路希望の確実な実現	○キャリアガイダンス部による教育活動全体の監理 ○「産業社会と人間」「自己探究」「課題研究」の関連と全体計画の明確化による目指す生徒像の実現 ○生徒一人一人に対応した進路指導の実施による進路目標100%達成	□目指す生徒像実現のため、CG部が系列、教務、生徒指導、広報等にかかるイニシアチブを発揮したか。 □「課題研究」の発表において目指す生徒像に即した評価の観点を設定した上で、評価が実施できたか。 □「産社」リーフレットを改訂し、活用することができたか。 □生徒の活動の継続性など、年次進捗で「自己探」、「課研」への発展に系統性や計画性が図られたか。 □3月中に生徒の進路目標実現100%が達成できたか。 □国公立大10%、私立大10%合格が達成できたか。
	健 康 ・ 安 全 指 導	○健全な心身の成長を促す学校体制の確立 ○心と体を守る全体計画の策定 ○環境美化の推進と質の向上	○薬物乱用防止や防犯教室等の健康・安全講習の複数回実施 ○定例職員会議での生徒の状況に関する情報共有 ○JR通学列車添乗、自転車乗車マナー指導の実施 ○通学安全マップの整備と通学路の安全性の確保 ○教育相談週間の実施による生徒理解の推進	□健康・安全に関する講習を2回以上実施できたか。 □健康・安全に関する意識の啓発が促進されたか。 □生徒に関する情報共有がなされ、共通理解が図られたか。 □JR通学や自転車運転マナー指導が計画通り実施されたか。 □関係機関や保護者との連携による通学路、JR駅舎清掃が計画どおり実施できたか。 □教育相談週間の実施に当たり、教師の教育相談に関する資質が事前に高められたか。 □教育相談週間の実施後、生徒に関する心の問題等について学年内でシェアリングできたか。

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
学校	信頼される学校づくり	<p>○防災、人身・実習製品事故等を防ぐ危機管理体制の向上</p> <p>○公衆衛生、農場教材管理に係る万全なチェック体制の確立</p> <p>○文書管理の徹底</p> <p>○小高、中高が連携した教育活動の充実</p> <p>○服務規律に対する意識向上</p> <p>○地域人材との連携による教育活動の充実</p>	<p>○防災安全点検の確実な実施と不具合箇所の早期修復</p> <p>○危機管理に関する研修の継続実施</p> <p>○学校農場を活用した生徒への農業への関心・意欲の向上と地域連携の強化</p> <p>体験の一層の充実</p> <p>○様々な教育に係る異校種連携と相互理解の深化</p> <p>○学校評議員と学校評価の有効活用</p>	<p>□「緊急時対応マニュアル」が理解され、月例の防災安全点検が機能し危険箇所について早期発見対応がなされたか。</p> <p>□「作業時の危険予測と安全対策」を全教員が理解するとともに他の部門等においても更新されたか</p> <p>□危機管理に関する研修を実施できたか。</p> <p>□「食育」など、本校の教育実践を小学校への出前授業を通して還元できたか。</p> <p>□小中高一貫したキャリア教育や教科指導、特別支援教育に関する取組がなされたか。(ステップアップ事業等)</p> <p>□開放農場会員による生徒との交流場面が作れたか。</p> <p>□評議員会議等の場面で地域と学校との連携の充実について意見が交わせたか。</p>
		<p>○総合学科の理念を実現するための系列経営の維持</p>	<p>○キャリア・ガイダンス部の機能拡充による目指す生徒像実現のための組織づくり</p> <p>○系列担当者を中心とした事業の推進とマンネリ化した事業の統廃合</p> <p>○事業関係機関等との緊密な連携と事業のねらいの明確化と整理</p>	<p>□目指す生徒像実現に向け、キャリア・ガイダンス部による各関係分掌等に対するイニシアチブが発揮できたか。</p> <p>□系列運営の考え方が教育課程に反映されたか。</p> <p>□系列所管の行事のスクラップアンドビルドが図られたか。</p> <p>□連携事業の受入、企画立案等が年度の新たな視点で考案されているか。</p>
		<p>○教育課程と授業改善の推進、授業力の向上</p> <p>○PDCAサイクルの理解と実践</p> <p>○キャリア教育に関する理解とインタープリター教育の推進</p> <p>○特別支援教育の理解</p>	<p>○重点目標や方針、ねらいを意識した取組の推進</p> <p>○分掌、学年等における重点目標、方策、評価の手順の理解</p> <p>○内部研修や研修講座の利用による特別支援の現状とインクルーシブな指導についての理解</p>	<p>□次期学習指導要領の改訂の方向性について理解しているか。</p> <p>□授業の工夫について、具体の取組がなされているか。</p> <p>□異校種の公開授業等に参加できたか。</p> <p>□各分掌、学年等において「学校経営計画」で掲げた重点目標の達成度について評価会議で適切に評価できたか。</p> <p>□本校のキャリア教育の重点であるインタープリター教育(本校オリジナル)の関連性について理解が図られたか。</p> <p>□配慮を要する生徒について学校全体での共通理解がなされているか。</p>
運営	組織運営			